北淡海　丸小船の館

代々伝わってきた 17 メートル木造貨物船は、北淡海・丸子船の館の一番の見所です。それは、鉄道や自動車が発達する以前の時代に、琵琶湖を重要な商業動脈にした船大工や船員に敬意を表するものです。

丸子舟は長くて浅い喫水の船で、二つ割にした杉の幹を組み込んだ独特の船体を備えています。江戸時代(1603−1867)には千を超える丸子舟が琵琶湖を航海しており、京都から衣類、タバコ、薬などを運び、また日本海からは薪、米、塩を運んでいました。博物館にある、慎重に復元された丸子船は、現存する 2 隻の船のうちの 1 隻であり、この貿易の一翼を担っていました。時代衣装を着た等身大の人形は、船を所有して乗船した可能性のある家族を表しており、琵琶湖横断中の船上での生活を示しています。

博物館には、多くの丸子舟の母港であった江戸時代の大浦港の地図、模型、詳細なジオラマもあります。隣接する大浦ふるさと資料館には、農機具や船舶工具から、アンティーク蓄音機まで、さまざまな郷土工芸品があります。